

子宮頸がんを予防するという選択～今だからできる～

講演会の目的

自分ではなく、大切なわが子にHPVワクチンを打たせるか否か、重大な決断を迫られている保護者の皆さまにとって有益な情報を提供し、正しい情報を得た上でどのように伝え、どのように判断するのか、その支援をすることです。また、接種の機会を逃した方、HPVワクチンに関する最新の知識を得たい方にとっても有益な講演会となっています。

本日の講演会で得られた知識を皆様の大切なご家族やご友人にお伝えくだされば幸いです。

講演会でわかること

- ・子宮頸がんになったらどうなるの？
- ・子宮頸がんは予防できるの？
- ・子宮頸がんの検診はどんなことをするの？
- ・HPVワクチンの安全性は確立されたのですか？
- ・HPVワクチンの副反応が怖い！どんな副反応がある？副反応がでたら？
- ・HPVワクチンの種類について
- ・HPVワクチンは何回打てばいいの？
- ・キャッチアップ接種って何？
- ・HPVワクチンは男性も接種した方がいいの？



HPVワクチンを受けると、将来子宮頸がん検診を受ける必要はない？

→必要です！

子宮頸がん予防は両輪！

1つ目は、がんになる前に予防すること＝HPVワクチン

2つ目はがんになる前に見つけて治療すること＝子宮頸がん検診

HPVワクチンの接種回数は？

HPVワクチンは子宮頸がんや一部の性感染症に対して予防効果がある？

接種回数は2～3回

※1回目の接種を受けるときの年齢によって異なります

9価ワクチン (4月から定期接種化)	がんを引き起こす7種類と 尖圭コンジローマ(いぼ)を起こす2種類のHPVの感染を予防
2価ワクチン	がんを引き起こす2種類のHPVの感染を予防
4価ワクチン	がんを引き起こす2種類と 尖圭コンジローマ(いぼ)を起こす2種類のHPVの感染を予防

HPVワクチンは、性交渉をしたことがない人に
投与した場合に最も効果的？

HPVワクチンは性交渉開始前に接種することが
最も効果的であるとされています。

しかし、すでに性交渉を持たれている方でもワクチンで予防できる

HPVの型すべてに感染している割合は少なく、
接種する意義はあるとされています。

～HPV(ヒトパピローマウイルス)について～

HPVはごくありふれたもので、200種類を超える型があるとされています。

そのうち、子宮頸がんの発症と関係が深いハイリスク型というものがある

(16型、18型など)ことがわかっています。

HPVワクチンを接種したことがある人は子宮頸がんを発症しない？

HPVワクチンで100%がんを予防することはできません。
20歳以上になったらがん検診を受診することが重要です。

HPVワクチンは初回月経が来てから打つべき？

初回月経前の接種であっても効果を発揮できます。

日本の子宮頸がんおよびHPV関連がんの対策とその管理体制について科学的根拠と諸外国の事例をファクトシートの形で国立がん研究センターがまとめています

<https://www.ncc.go.jp/html/icc/hpvcancer/index.html>



ユージさんと学ぶ『知ろう! HPVワクチンのこと』



<https://youtu.be/KHx6BzKvHWQ?si=jadC5e7eA8R5dt4Z>



本動画はMSD株式会社研究者主導臨床研究「An Examination of the effect of cancer education by using word-of-mouth: cervical cancer prevention program in Japan.」(代表:片山佳代子)の助成金を使って制作されました。